令和6年度 第33回建築作品・新潟県賞 最優秀賞 プラウム建築設計事務所(新潟市)

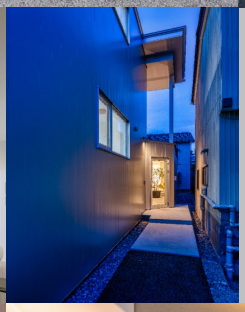
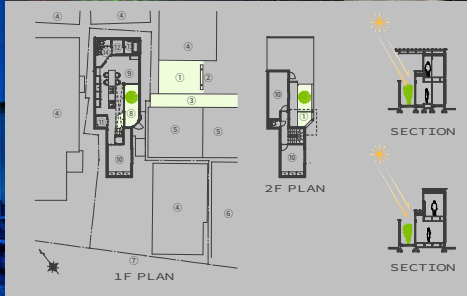
白銀の家

1．近隣住民のプライバシー確保と近隣住居の室内に採光を届けることを考え、良好な近隣関係を築くことを考える

日本海側の新潟県では晩秋から長い冬がようやく終わって春が訪れるまで太陽を見ることがほとんど稀にしかないため「部屋の暗さ」への抵抗感は他の地域よりも強いと感じた。その打開策として外壁素材を適度な光沢のある白銀のフラットな素材とし、適度な光の反射により近隣住居の室内に採光を届けることを考えた。見る角度や天候により色が変化して見える素材を選定した。近隣住居側には窓は設けず壁面のみとし近隣住民の視覚的プライバシー確保にも配慮した。
その結果、近隣住民からは「この家が建ってから部屋が明るくなった」と好感をもたれている。

2．古くからある神社と路地の余白を活かし中庭を介してその余白から間接的に採光と通風を取り入れる

この住宅ではカーテンを使わない開放的な生活を考えた。敷地の周囲は住宅や長屋などで囲まれているが南東側には古くからある「神社と路地」がある。その上空には余白がありその余白を活かそうと考えた。建物に2坪半程度の中庭を挿入し「神社と路地」の余白とつながる空間としている。
外からは室内が見えないように壁を設け中庭を介して「神社と路地」の上空から間接的に採光と通風を取り入れる。

3．オープンエア空間をつくることでプライバシーが確保され、気兼ねなく「自然の変化」を感じながら生活できる

この外部を取り込む「オープンエア空間」はプライバシーが確保され昼夜ともにカーテンを閉めることなく「自然の変化」を感じながら生活できる。自然の一部としてある生活こそが空間の本質だと考える。
神社と路地には将来建物が建つ可能性が低いためこの環境は将来も変わりなく持続できると考える。